

11 經濟專攻專門科目

| | | | |
|--------------------|---|---------|--|
| 授業科目 | 日本経済論 | 担当者 | 船津 潤 |
| | 〔履修年次〕 1,2年 | 授業外対応 | 講義前後、それ以外も随時(日時を調整することがあるかもしれないませんが、遠慮なく声をかけてください) |
| | 〔学期〕 前期 〔単位〕 2単位 | 〔必修/選択〕 | 選択 〔授業形態〕 講義方式 |
| テーマ及び概要 | <p>【テーマ】日本の明治維新以降の経済・経済政策の動きとその背景について理解を深めること</p> <p>【概要】明治維新から現在までの日本の経済と経済政策の動向について、特に産業政策、そして構造改革とアベノミクス以降の政策に焦点を当てながら講義します。また、過去が現在とどうつながっているかという歴史的推移とともに、石油危機、プラザ合意、日米構造協議、そしてグローバル化といった海外からの影響を強く意識しながら講義を進めます。</p> <p>【到達目標】①明治維新以降の日本の経済と経済政策の歴史的推移について理解し、説明できるようになること ②日本経済の歴史と海外とのつながりを踏まえて、日本経済の現状と課題について自分なりの見解が持てるようになること</p> | | |
| (1)テキスト (2)参考文献 | <p>(1) なし</p> <p>(2) 三和良一『概説日本経済史 近現代 (第3版)』東京大学出版会 内閣府『年次経済財政報告 各年度版』</p> | | |
| 授業スケジュール | <p>第1回 ガイダンス：講義の目標、評価基準等の説明</p> <p>第2回 日本の産業政策の歴史 戦前(1)：資本主義社会とはどんな社会か等</p> <p>第3回 日本の産業政策の歴史 戦前(2)：明治維新の意義、その後の産業構造の変化等</p> <p>第4回 敗戦直後の日本経済：敗戦直後の状況、傾斜生産方式、1950年代前半の産業政策等</p> <p>第5回 高度成長の開始：高度成長初期の産業政策と経済状況・産業構造等</p> <p>第6回 行政指導：勧告操短、企業の反発等</p> <p>第7回 開放経済体制への移行：IMF8 条国への移行、産業再編等</p> <p>第8回 1970年代の日本経済：2度のオイル・ショック、構造不況業種への対応、知識集約化・高付加価値化への動き等</p> <p>第9回 企業集団とその変化：戦後の企業集団の特徴、グループ内の結び付き、現在の状況等</p> <p>第10回 1980年代以降の日本経済：対米貿易摩擦、日米構造協議等</p> <p>第11回 現在の産業政策：産業競争力強化法、現在の産業政策の特徴等</p> <p>第12回 グローバル化と構造改革への動き：プラザ合意と国際協調、バブル崩壊後の動向等</p> <p>第13回 構造改革：構造改革の特徴・本質等</p> <p>第14回 構造改革とアベノミクス：構造改革下の福祉改革の内容と特徴、アベノミクスとの比較等</p> <p>第15回 まとめ：講義を振り返りつつポイントの説明、試験についての説明等</p> | | |
| 授業外学習(予習・復習) | <p>普段から日本経済関連のニュース(できれば外国のメディアを含む複数)に注目すること、特に講義後に関連する事項についてインターネットや文献等を通して調べ、検討することを勧めます(これらは公務員試験を含む就職活動や四大への編入にも有意義です)。そして、講義内容に直接関係しなくても、聞きたいことが出てきたら、遠慮なく質問してください。</p> | | |
| 成績評価の方法 | <p>筆記試験(80%)、小テスト(20%)を基本とし、アクティブラーニングでの発言内容で加点します。小テストやアクティブラーニング等の詳細については1回目の講義(ガイダンス)で説明します。</p> | | |
| 実務経験について | なし | | |

| | | | |
|--------------------|--|------------|--|
| 授業科目 | 財政学 | 担当者 | 船津 潤 |
| | 〔履修年次〕 1,2年 | 授業外対応 | 講義前後、それ以外も随時(日時を調整することがあるかもしれませんが、遠慮なく声をかけてください) |
| | 〔学期〕 後期 〔単位〕 2単位 | 〔必修/選択〕 選択 | 〔授業形態〕 講義方式 |
| テーマ及び概要 | <p>【テーマ】財政に関する基本的な概念や理論、日本の財政の基礎的な制度について、内容、実態、特徴、課題に関する理解を深めること</p> <p>【概要】まずは財政に関する基本的な概念や理論について講義します。その上で、それらを踏まえて財政の基礎的な制度に関する講義を行います。ここでは、財政民主主義という財政制度の根幹、経済における公共部門と民間部門の関係、歴史的推移、そしてグローバル化の影響を強く意識しながら講義を進めます。この講義を受講することで、他の科目で学んだマクロ経済学の理論等が実際にどのように政策に活用されているのかも理解できると思います。また、財政は、政治と経済の「結節点」(つなぎ目の役割を担っています)ので、他の科目では触れることが少ない経済に対する政治の影響に関しても見識を高めることができます。</p> <p>【到達目標】①財政の基礎的な制度について理解し、説明できるようになること ②実際の政府の活動について分析・評価できるようになること ③マクロ経済学の理論等がどのように政策に活用されているのかを理解すること ④財政の影響を踏まえて、経済・社会の動向を的確に把握できるようになること</p> | | |
| (1)テキスト (2)参考文献 | <p>(1) なし</p> <p>(2) 金澤史男編著『財政学』有斐閣(2005年) 植田和弘・諸富徹編著『テキストブック現代財政学』有斐閣(2016年) 神野直彦著『財政学 第3版』有斐閣(2021年) 森田稔著『図説 日本の財政 各年度版』東洋経済新報社</p> | | |
| 授業スケジュール | <p>第 1回 ガイダンス：講義の目標、評価基準等の説明</p> <p>第 2回 財政(1)：財政の定義、財政学の特徴、政府に対する評価の揺れ等</p> <p>第 3回 財政(2)：市場の失敗、財政民主主義と制度化に必要な原則等</p> <p>第 4回 予算(1)：定義、役割、政府と議会の役割、予算原則等</p> <p>第 5回 予算(2)：予算の種類、特別会計と「埋藏金」、改革の方向等</p> <p>第 6回 経費(1)：定義、主要な分類、経費膨張の法則、転位効果等</p> <p>第 7回 経費(2)：小さな政府論とサプライサイド・エコノミクス等</p> <p>第 8回 租税(1)：定義、租税の根拠、代表的な租税原則等</p> <p>第 9回 租税(2)：公平の基準、望ましい税制とは等</p> <p>第 10回 公債(1)：定義、民間債務・租税との対比、公債の種類等</p> <p>第 11回 公債(2)：日本の国債発行における原則、制度、「ギリシャよりひどい」は本当か等</p> <p>第 12回 財政投融资：定義、運用対象、批判、2001年度の改革、今後の展望等</p> <p>第 13回 財政の国際化：国際公共財、グローバル化と国際的財政移転等</p> <p>第 14回 財政改革を考える：社会の変化と財政、財政危機とは、財政改革で求められる視点等</p> <p>第 15回 まとめ：講義を振り返りつつポイントの説明、試験についての説明等</p> | | |
| 授業外学習(予習・復習) | <p>講義の前後に財務省のサイト等で関連事項について調べて検討すること、普段から経済・財政関連のニュースに注目すること(できれば外国のメディアを含む複数、加えて日本関連だけでなく、諸外国関連のニュースも)を勧めます(公務員試験を含む就職活動や四大への編入にも有意義です)。そして、講義内容に直接関係しなくても、聞きたいことが出てきたら、遠慮なく質問してください。</p> | | |
| 成績評価の方法 | <p>筆記試験(80%)、小テスト(20%)を基本とし、アクティブラーニングでの発言内容で加点します。小テストやアクティブラーニング等の詳細については1回目の講義(ガイダンス)で説明します。</p> | | |
| 実務経験について | <p>なし</p> | | |

| 授業科目 | 農業経済論 | | 担当者 | 前田 千春 |
|--------------------|--|------|---------|--------------------------|
| | [履修年次] | 1,2年 | 授業外対応 | 適宜対応する。メール等で事前に連絡してください。 |
| | [学期] | 後期 | [単位] | 2単位 |
| | | | [必修/選択] | 選択 |
| | | | [授業形態] | 講義方式 |
| テーマ及び概要 | <p>【テーマ】世界の食料生産の動向および日本の農業・農村の現状と課題について学ぶ。</p> <p>【概要】日本の農業・農村は、農業者の減少および高齢化、耕作放棄地の増加といった様々な課題に直面している。本講義では、農業の生産・流通の仕組みや日本農業の展開過程を学ぶとともに、現代の農業・農村に関する諸課題とその原因を世界情勢や経済発展と関連付けながら考察し、これからの日本農業について考える。</p> <p>【到達目標】世界の食料生産の動向および日本の農業・農村の現状と課題について理解し、日本農業の展望について考える能力を身に付ける。</p> | | | |
| (1)テキスト (2)参考文献 | <p>(1) プリントを配布する。</p> <p>(2)</p> | | | |
| 授業スケジュール | <p>第 1 回 ガイダンス：農業・農村の基礎知識</p> <p>第 2 回 世界の農産物需給と食料事情</p> <p>第 3 回 農産物貿易とアグリビジネス</p> <p>第 4 回 先進国の農業と農業政策</p> <p>第 5 回 途上国経済と農業</p> <p>第 6 回 日本の農産物需給と食料事情</p> <p>第 7 回 日本農業の展開過程①</p> <p>第 8 回 日本農業の展開過程②</p> <p>第 9 回 農業の生産組織と土地</p> <p>第 10 回 農産物流通の仕組み</p> <p>第 11 回 日本の農業・農村の現状と課題</p> <p>第 12 回 農業・農村の多面的機能</p> <p>第 13 回 日本農業の新たな取り組み①</p> <p>第 14 回 日本農業の新たな取り組み②</p> <p>第 15 回 まとめ：これからの日本農業</p> | | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 講義ノートおよび参考文献を活用して小レポートに取り組むこと。 | | | |
| 成績評価の方法 | 小レポート (60%)、期末レポート (40%) | | | |
| 実務経験について | なし | | | |

| 授業科目 | ファイナンス論 | | 担当者 | 岩上 敏秀 |
|--------------------|--|------|---------|-------------------------|
| | [履修年次] | 1,2年 | 授業外対応 | いつでも対応します。メールで連絡してください。 |
| | [学期] | 後期 | [単位] | 2単位 |
| | | | [必修/選択] | 選択 |
| | | | [授業形態] | 講義方式 |
| テーマ及び概要 | <p>【テーマ】資産運用のための投資商品や投資手法について実践的な知識を学びます。</p> <p>【概要】私たちが働いて生涯で得られる所得は限られています。限られた生涯所得を運用し、上手に資産形成しながら将来に備えていく必要があります。本講義は、株式などの投資商品について学んだ上で、リスクを抑えながら一定の効果を生む投資手法について考えていきます。スマホを活用したリアルタイム投稿システムを使って、受講者と双方向コミュニケーションしながら講義を進めます。</p> <p>【到達目標】証券投資や資産運用に関するニュースを理解できるようになる。各種投資商品の内容とリスクを理解し、自分に最適な投資商品を選べるようになる。</p> | | | |
| (1)テキスト (2)参考文献 | <p>(1) プリント</p> <p>(2) 授業内で適宜紹介する</p> | | | |
| 授業スケジュール | <p>第 1 回 ガイダンス：講義の目的・進め方、人生とお金 (1) (生涯でかかってくるお金を確認しよう)</p> <p>第 2 回 人生とお金 (2) (生涯で受け取るお金を確認しよう)</p> <p>第 3 回 投資のリスクとリターン (投資収益率、分散、標準偏差)</p> <p>第 4 回 主な投資商品 (預金、債券、株式、投資信託、債券と金利)</p> <p>第 5 回 株式投資 (1) (株式会社、上場、証券取引所)</p> <p>第 6 回 株式投資 (2) (会社の価値、株価の適正水準)</p> <p>第 7 回 株式投資 (3) (事例研究①：企業分析、業績予想)</p> <p>第 8 回 株式投資 (4) (事例研究②：企業価値・株価の予想)</p> <p>第 9 回 株式投資 (5) (株価、チャート、株価の変動要因)</p> <p>第 10 回 長期・積立・分散投資 (1) (分散の効果)</p> <p>第 11 回 長期・積立・分散投資 (2) (複利パワー)</p> <p>第 12 回 投資信託 (1) (投資信託の基本)</p> <p>第 13 回 投資信託 (2) (ファンド情報の見方、ファンドの選び方)</p> <p>第 14 回 証券会社の選び方、NISA の活用</p> <p>第 15 回 まとめ、授業アンケート</p> | | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示します。 | | | |
| 成績評価の方法 | 中間レポート (30%) + 期末試験 (70%) | | | |
| 実務経験について | 国内外の金融機関で約 30 年の実務経験があります。 | | | |

| 授業科目 | 経済学史 | | 担当者 | カムチャイ・ライサミ |
|--------------------|---|------|---------|------------|
| | 〔履修年次〕 | 1,2年 | 授業外対応 | 講義終了時 |
| | 〔学期〕 | 後期 | 〔単位〕 | 2単位 |
| | | | 〔必修/選択〕 | 選択 |
| | | | 〔授業形態〕 | 講義方式 |
| テーマ及び概要 | <p>【テーマ】【テーマ】経済学史入門 経済学説の史的展開をやさしく解説する。</p> <p>【概要】【概要】経済学の時代的要請と経済学者の人となり経済学の黎明期前後（17世紀頃）から現代経済学（20世紀初頭）までの主要学説と経済学者を中心に紹介する。</p> <p>【到達目標】【到達目標】経済学の歴史を知ることによって経済学をより深く理解できること 経済学の歴史を学んでその意義と限界を知ることによって正しい見方を身につける。</p> | | | |
| (1)テキスト (2)参考文献 | <p>(1) 教科書は特に指定しない。毎回プリントを配布する。</p> <p>(2) 必要に応じてその都度指示する。</p> | | | |
| 授業スケジュール | <p>第1回 経済学史の方法と範囲</p> <p>第2回 重商主義の経済思想：マリーンズ、マン、スチュアート</p> <p>第3回 重農主義の経済思想：ケネー、テュルゴ</p> <p>第4回 過渡期の経済思想：ペティ、ロック、マンデヴィル、カンティロン、ヒューム</p> <p>第5回 古典学派の生成：スミス</p> <p>第6回 古典学派の発展：マルサス、リカード</p> <p>第7回 古典学派の完成：セイ、シスモンディ、シーニア、ミル</p> <p>第8回 ドイツ歴史学派：リスト、ロッシュャー、ヒルデブラント、クニース</p> <p>第9回 マルクス学派：マルクス</p> <p>第10回 限界革命の先駆者達：テューネン、ゴッセン、デュピュイ</p> <p>第11回 限界分析の経済学：クルノー、ジェヴォンズ</p> <p>第12回 オーストリア学派：メンガー、ヴィーザー、バウム＝バヴェルク</p> <p>第13回 ローザンヌ学派：ワルラス、パレート</p> <p>第14回 ケンブリッジ学派：マーシャル、ピグー</p> <p>第15回 ケインズ革命：ケインズ</p> | | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 授業前後に必ず合計で4時間程度の予習・復習を行うこと。 | | | |
| 成績評価の方法 | 期末筆記試験（100%） | | | |
| 実務経験について | なし。 | | | |

| 授業科目 | 経済学特講 I | | 担当者 | 岩上 敏秀 |
|--------------------|--|----|---------|-------------------------|
| | 〔履修年次〕 | 2年 | 授業外対応 | いつでも対応します。メールで連絡してください。 |
| | 〔学期〕 | 後期 | 〔単位〕 | 2単位 |
| | | | 〔必修/選択〕 | 選択 |
| | | | 〔授業形態〕 | 講義方式 |
| テーマ及び概要 | <p>【テーマ】証券外務員一種資格試験合格に必要な証券取引の基礎知識および実務知識を学びます。</p> <p>【概要】金融機関の職員として金融商品の営業活動に従事するには、証券外務員の資格が必要です。本講義は、銀行などの金融機関に内定した学生を対象に、証券外務員一種資格試験に合格するために必要な証券取引の基礎知識および実務知識を学びます。商経学科以外の学科から銀行に内定している学生の履修も歓迎します。（本講義は、金融商品を販売する側の金融機関での実務知識を学びます。金融商品を利用する側の証券投資や資産運用を学びたい場合は、「ファイナンス論」の履修を薦めます）</p> <p>【到達目標】証券外務員一種資格試験に合格できる知識を修得する。</p> | | | |
| (1)テキスト (2)参考文献 | <p>(1) プリント</p> <p>(2) 授業内で適宜紹介する</p> | | | |
| 授業スケジュール | <p>第1回 ガイダンス、株式業務、信用取引(1)</p> <p>第2回 株式業務、信用取引(2)</p> <p>第3回 債券業務(1)</p> <p>第4回 債券業務(2)</p> <p>第5回 先物取引、オプション取引、店頭デリバティブ取引(1)</p> <p>第6回 先物取引、オプション取引、店頭デリバティブ取引(2)</p> <p>第7回 先物取引、オプション取引、店頭デリバティブ取引(3)</p> <p>第8回 先物取引、オプション取引、店頭デリバティブ取引(4)</p> <p>第9回 証券税制</p> <p>第10回 金融商品取引法</p> <p>第11回 取引所定款・諸規則</p> <p>第12回 協会定款・諸規則</p> <p>第13回 投資信託および投資法人に関する業務</p> <p>第14回 財務諸表と企業分析</p> <p>第15回 まとめ、講義アンケート</p> | | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示します。 | | | |
| 成績評価の方法 | 証券外務員試験の受検結果（90%）＋授業への参加姿勢（10%）（外務員試験を受検しない学生については確認テストを行うことがあります） | | | |
| 実務経験について | 国内外の金融機関で約30年の実務経験があります。 | | | |

| 授業科目 | 経済学特講Ⅱ | | 担当者 | 山口 祐司 | |
|--------------------|--|---------|-------|-------------------|------|
| | 〔履修年次〕 | 1,2年 | 授業外対応 | メール等で予約の上適宜対応します。 | |
| | 〔学期〕 | 前期 | 〔単位〕 | 2単位 | |
| | | 〔必修/選択〕 | 選択 | 〔授業形態〕 | 講義方式 |
| テーマ及び概要 | <p>【テーマ】アメリカ経済とアメリカを中心とした国際経済関係の歴史を通して、経済学上のキーワードを学んでいきます。</p> <p>【概要】アメリカの力の相対的低下にもかかわらずアメリカに学ぶ意義（第1回）。19世紀から20世紀初頭にかけてのアメリカ経済の勃興（第2～3回）。1929年に始まる大恐慌の原因と結果（第4～6回）。1950～70年代にかけて、アメリカが主導する資本主義陣営の高度経済成長とその限界（第7～9回）。1980年代以降の、「新自由主義」と呼ばれる改革をテコにした新たな経済成長の仕組み（第10～12回）。新自由主義がアメリカにもたらした問題と今後のゆくえ（第13～14回）。経済を考える上でも、科学・技術や文化、政治など、同時代の社会の動きを知ることは重要である。映像資料等を利用してそうした知識も補っていく。</p> <p>【到達目標】アメリカ経済の歴史から特質を学ぶこと。良い意味でも悪い意味でも資本主義経済の最先端をいくアメリカに学ぶことで、日本を含む世界が直面する経済・社会の問題に取り組む力をつけること。</p> | | | | |
| (1)テキスト (2)参考文献 | <p>(1) プリント (2) 講義時に提示</p> | | | | |
| 授業スケジュール | <p>第1回 ガイダンス、なぜいまアメリカ経済を学ぶか 第2回 アメリカ経済の勃興（1）大量生産体制 第3回 アメリカ経済の勃興（2）債務国から世界最大の債権国へ 第4回 大恐慌と第二次世界大戦（1）狂騒の1920年代 第5回 大恐慌と第二次世界大戦（2）保護貿易と世界恐慌 第6回 大恐慌と第二次世界大戦（3）ニューディールと戦争 第7回 ブレトンウッズ体制とケインズ政策（1）ブレトンウッズ体制と戦後国際経済秩序 第8回 ブレトンウッズ体制とケインズ政策（2）ケインズ政策と持続的経済成長 第9回 ブレトンウッズ体制とケインズ政策（3）ドル危機と石油危機 第10回 新自由主義の興隆（1）レーガノミクスと金融化 第11回 新自由主義の興隆（2）グローバルサプライチェーンの形成 第12回 新自由主義の興隆（3）先端技術とイノベーション 第13回 新自由主義の帰結（1）リーマンショック 第14回 新自由主義の帰結（2）格差問題のゆくえ 第15回 まとめ</p> | | | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 事前に提示する参考文献を予習し、授業後にはプリントをよく見直すようにしてください。 | | | | |
| 成績評価の方法 | レポート（60%）、毎回の授業で実施する授業まとめ（40%） | | | | |
| 実務経験について | なし。 | | | | |

| 授業科目 | 法学特講 | | 担当者 | 藤野 博行 | |
|--------------------|--|---------|-------|----------------|------|
| | 〔履修年次〕 | 1,2年 | 授業外対応 | 基本的にいつでも対応します。 | |
| | 〔学期〕 | 後期 | 〔単位〕 | 2単位 | |
| | | 〔必修/選択〕 | 選択 | 〔授業形態〕 | 講義方式 |
| テーマ及び概要 | <p>【テーマ】ジェンダー的な視点から家族法を分析し、性別に関係なく個性や能力を発揮できる社会を構築するための方法を考えます。</p> <p>【概要】私たちは、「女らしさ、男らしさ」といったように、人を性別で分類してしまうことがあります。しかし、このような分類は、個人の個性や能力を十分に発揮できる社会の構築を困難にします。そこで、本科目はジェンダー的な視点から民法（家族法）等について分析することにより、性別に関係なく個性や能力を十分に発揮できる社会を構築するための方法について考えます。</p> <p>【到達目標】①ジェンダーに関する基本用語等を説明できる、②社会問題等について、ジェンダーの視点から論理的に考えることができる、③自分の意見を相手にわかりやすく表現することができる、④異質な他者と議論・協働することができる。</p> | | | | |
| (1)テキスト (2)参考文献 | <p>(1) なし（資料を配付します） (2) 必要に応じて提示します。</p> | | | | |
| 授業スケジュール | <p>第1回 授業を進めるにあたって、ジェンダー論① 第2回 ジェンダー論② 第3回 ジェンダー論③ 第4回 親族・相続法のできるまで 第5回 性の多様性について（性同一障害特例法） 第6回 婚外子と戸籍（民法・戸籍法） 第7回 同性婚はできるのか？①（民法） 第8回 同性婚はできるのか？②（民法） 第9回 知識確認テスト（前半パート） 第10回 なぜ、夫婦・親子はどちらかの姓を名乗らなければならないのか（民法） 第11回 なぜ、夫婦・親子はどちらかの姓を名乗らなければならないのか（民法） 第12回 性別役割分業と夫婦別産制（民法） 第13回 養育費（民法） 第14回 知識確認テスト（後半パート） 第15回 今学期のまとめ（レポートのアウトラインや作成のポイントについて）</p> | | | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 講義時に指示します。 | | | | |
| 成績評価の方法 | ①知識確認テスト（20点×2）、②期末レポート（50点）③グループワーク等の際の積極性（10点）。 | | | | |
| 実務経験について | | | | | |

| 授業科目 | 簿記論Ⅱ | 担当者 | 岡村 雄輝 |
|--------------------|--|---------|----------------|
| | [履修年次] 指定なし [学期] 後期 [単位] 2単位 | 授業外対応 | 講義前後に適宜対応 |
| | | [必修/選択] | 選択 [授業形態] 講義方式 |
| テーマ及び概要 | <p>【テーマ】複式簿記の基本原理を学ぶ</p> <p>【概要】日商簿記3級レベルのテキスト、ワークブックを使用して複式簿記による記帳手続を解説し、問題演習に取り組みます。簿記力を着実に養い、より高度な会計を学ぶためには、問題演習の反復を通じた複式簿記の基本原理の理解が肝要です。勤勉な学習姿勢が望まれます。※簿記論Ⅰの学修を前提として講義をします。</p> <p>【到達目標】決算整理手続、補助簿、伝票の記入について学習する。</p> | | |
| (1)テキスト (2)参考文献 | <p>(1) 渡部裕互、片山寛、北村敬子(編)『新検定 簿記講義3級 商業簿記』『簿記ワークブック3級』(令和6年版)、中央経済社。</p> <p>(2) 伊藤龍峰他『基本簿記原理』(第3版)、中央経済社。</p> | | |
| 授業スケジュール | <p>第1回 簿記一巡の手続きとは? : 仕訳・転記・決算</p> <p>第2回 売掛金と買掛金: 人名勘定, 売掛金と元帳と買掛金元帳, 売掛金明細表と買掛金明細表, クレジット売掛金, 前払金と前受金</p> <p>第3回 その他の債権と債務: 貸付金と借入金, 未収入金と未払金, 立替金と預り金, 仮払金と仮受金, 受取商品券, 差入保証金</p> <p>第4回 受取手形と支払手形: 手形の意義と補助簿, 手形貸付金と手形借入金, 電子記録債権と債務</p> <p>第5回 有形固定資産: 有形固定資産の取得, 減価償却, 有形固定資産の売却</p> <p>第6回 有形固定資産: 固定資産台帳, 年次決算と月次決算</p> <p>第7回 貸倒損失と貸倒引当金: 貸倒れと貸倒損失, 貸倒れの見積りと貸倒引当金の設定 資本: 株式会社の設立と株s期の発行, 繰越利益剰余金, 配当</p> <p>第8回 収益と費用: 収益・費用の未収・未払いと前受け・前払い, 消耗品と貯蔵品, 諸会費</p> <p>第9回 税金: 租税公課, 法人税, 住民税及び事業税, 消費税</p> <p>第10回 伝票: 仕訳帳と伝票, 3伝票制, 伝票から帳簿への記入</p> <p>第11回 伝票: 伝票の集計</p> <p>第12回 財務諸表: 試算表の作成, 決算整理</p> <p>第13回 財務諸表: 精算表の作成, 財務諸表の作成</p> <p>第14回 総合問題: 問題演習と解説</p> <p>第15回 総合問題: 問題演習と解説</p> | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 毎回復習をすること。継続的な学習なしに簿記はできるようになりません。 | | |
| 成績評価の方法 | 期末テスト100% | | |
| 実務経験について | なし | | |

| 授業科目 | 国際経済論 | 担当者 | 野村 俊郎 |
|--------------------|--|---------|--------|
| | [履修年次] [学期] [単位] | 授業外対応 | |
| | | [必修/選択] | [授業形態] |
| テーマ及び概要 | <p>【テーマ】</p> <p>【概要】</p> <p>【到達目標】</p> | | |
| (1)テキスト (2)参考文献 | <p>(1)</p> <p>(2)</p> | | |
| 授業スケジュール | <p>第1回</p> <p>第2回</p> <p>第3回</p> <p>第4回</p> <p>第5回</p> <p>第6回</p> <p>第7回</p> <p>第8回</p> <p>第9回</p> <p>第10回</p> <p>第11回</p> <p>第12回</p> <p>第13回</p> <p>第14回</p> <p>第15回</p> | | |
| 授業外学習(予習・復習) | | | |
| 成績評価の方法 | | | |
| 実務経験について | | | |

| | | | |
|--------------------|---|-------|--------|
| 授業科目 | 国際立地論 | 担当者 | 野村 俊郎 |
| | [履修年次] [学期] [単位] | 授業外対応 | [授業形態] |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】 【概要】 【到達目標】 | | |
| (1)テキスト (2)参考文献 | (1) (2) | | |
| 授業スケジュール | 第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回 | | |
| 授業外学習(予習・復習) | | | |
| 成績評価の方法 | | | |
| 実務経験について | | | |

| | | | |
|--------------------|---|-------|--------|
| 授業科目 | アジア経済論 | 担当者 | 野村 俊郎 |
| | [履修年次] [学期] [単位] | 授業外対応 | [授業形態] |
| テーマ及び概要 | 【テーマ】 【概要】 【到達目標】 | | |
| (1)テキスト (2)参考文献 | (1) (2) | | |
| 授業スケジュール | 第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回 | | |
| 授業外学習(予習・復習) | | | |
| 成績評価の方法 | | | |
| 実務経験について | | | |

| 授業科目 | 外国貿易論 | | 担当者 | 大重 康雄 | |
|--------------------|--|---------|-------|------------|------|
| | [履修年次] | 1,2年 | 授業外対応 | 適宜対応 (要予約) | |
| | [学期] | 後期 | [単位] | 2単位 | |
| | | [必修/選択] | 必修 | [授業形態] | 講義方式 |
| テーマ及び概要 | <p>【テーマ】経済のグローバル化という視点で、貿易取引における現状と課題について考える</p> <p>【概要】貿易や外国為替取引の仕組みをわかりやすく解説し、常に変化する貿易の現状と脱炭素等国際間で発生する様々な課題を報道資料や日本貿易振興機構（ジェトロ）等のデータを使い考える。</p> <p>【到達目標】貿易取引の基本的仕組み理解し、国際経済の動静に対し自分なりの見解をもって意見が言える。</p> | | | | |
| (1)テキスト (2)参考文献 | <p>(1) グローバル・エコノミー第3版 (有斐閣アルマ)</p> <p>(2) 講師配付プリント (毎回配付)</p> | | | | |
| 授業スケジュール | <p>第1回 開講 貿易と私たちの暮らし</p> <p>第2回 自由貿易のもたらす利益</p> <p>第3回 新古典派貿易理論を学ぶ</p> <p>第4回 グローバル生産システム (GVC) と貿易の現状</p> <p>第5回 国際収支からみた日本貿易の姿</p> <p>第6回 外国為替市場と為替レート</p> <p>第7回 貿易政策と貿易摩擦の歴史</p> <p>第8回 貿易決済の方法</p> <p>第9回 国際貿易の論点・・・中間まとめ (ディスカッション)</p> <p>第10回 世界の地域貿易協定 (FTA/EPA) の現状</p> <p>第11回 自由貿易体制の変化と日本の貿易</p> <p>第12回 鹿児島県の貿易取引の現状・特徴</p> <p>第13回 日本貿易の展望と課題</p> <p>第14回 グローバル・イシュー：経済開発と環境・人権を考える</p> <p>第15回 まとめ</p> | | | | |
| 授業外学習 (予習・復習) | 授業中各自に質問をするのでシラバスに従って予習をしてくること。また復習し次回質問すべきことをまとめておくこと。 | | | | |
| 成績評価の方法 | 筆記試験 (80%) + 授業での発言内容 (20%) | | | | |
| 実務経験について | 地域金融機関職員としての実務経験 (外貨資金取引・貿易投資相談業務など)、AIBA 認定貿易アドバイザー (#018) | | | | |

| 授業科目 | 国際関係論 | | 担当者 | 福田 忠弘 | |
|--------------------|--|---------|-------|--------|------|
| | [履修年次] | 1,2年 | 授業外対応 | 適宜対応 | |
| | [学期] | 前期 | [単位] | 2単位 | |
| | | [必修/選択] | 選択 | [授業形態] | 講義方式 |
| テーマ及び概要 | <p>【テーマ】国際社会に生じるさまざまな諸問題について理解する。同時に、国家以外の行為体についての理解を深める。</p> <p>【概要】講義では、国際関係の史的展開を概説したうえで、現代国際関係における諸問題について分析する。国際関係の史的展開では、第二次世界大戦後の冷戦史 (特にアジアにおける冷戦) を対象とし、国際システムの歴史の変遷をたどる。その後、特に貧困問題、環境問題、人権、テロ、グローバルガバナンスについての説明と、問題解決に向けた国際社会の取り組みを紹介する。</p> <p>【到達目標】国際社会の現代的諸問題を把握し、その背景についての理解を深める。</p> | | | | |
| (1)テキスト (2)参考文献 | <p>(1) 使用しない</p> <p>(2) 適宜、紹介する。</p> | | | | |
| 授業スケジュール | <p>第1回 ガイダンス：講義の目的と方法</p> <p>第2回 国際関係論の基礎1：国内社会と国際社会は何が違うのか</p> <p>第3回 国際関係論の基礎2：行為体と争点の多様化</p> <p>第4回 国際関係のなりたち1：第二次世界大戦後の秩序形成と冷戦</p> <p>第5回 国際関係のなりたち2：アジアにおける冷戦の拡大1</p> <p>第6回 国際関係のなりたち3：アジアにおける冷戦の拡大2</p> <p>第7回 国際関係のなりたち4：核兵器について</p> <p>第8回 国際関係のなりたち5：大国の支配とナショナリズム</p> <p>第9回 国際関係のなりたち6：冷戦後の世界秩序</p> <p>第10回 国際社会における諸問題1：グローバリゼーションと貧困問題</p> <p>第11回 国際社会における諸問題2：貧困と開発</p> <p>第12回 国際社会における諸問題3：国境を越える諸問題</p> <p>第13回 国際社会における諸問題4：保守化する世界</p> <p>第14回 国際社会における諸問題5：コロナ、ウクライナ後の社会</p> <p>第15回 まとめ</p> | | | | |
| 授業外学習 (予習・復習) | 適宜指示する | | | | |
| 成績評価の方法 | 試験 (100%) によって評価する。 | | | | |
| 実務経験について | NGO での勤務経験あり | | | | |

| 授業科目 | 比較文化 | | 担当者 | 小林 朋子 |
|--------------------|---|----|---------|------------|
| | 〔履修年次〕 | 2年 | 授業外対応 | 適宜対応 (要予約) |
| | 〔学期〕 | 前期 | 〔単位〕 | 2単位 |
| | | | 〔必修/選択〕 | 選択 |
| | | | 〔授業形態〕 | 講義方式 |
| テーマ及び概要 | <p>【テーマ】【テーマ】異文化理解・異文化コミュニケーション・異文化交流とは何か。</p> <p>【概要】【概要】今日のグローバル化社会では、毎日の生活で異なる文化を持つ人々たちとのコミュニケーションが増加している。また、「異文化」とは国境を越える出会いを背景とした文化であるというステレオタイプを取り払えば、異質な他者との出会いも私たちの日常にあふれている。本講義では、そうした他者とのような関係性＝コミュニケーションを構築していくべきなのか、様々な観点から学んでいく。講義終盤では外国人との交流の時間を設ける。受講者はこの「異文化交流会」に向けて、主体的に考えながら講義を受ける必要がある。</p> <p>【到達目標】【到達目標】・広い視野から異文化を正しく理解した上で、他言語を話す人々の価値観を知り、適切にコミュニケーションを行うことができる。・異文化交流の意義について体験的に理解する。</p> | | | |
| (1)テキスト (2)参考文献 | <p>(1) 伊佐雅子監修『多文化社会と異文化コミュニケーション』（三修社刊、2007年）</p> <p>(2) 池田理知子編著『よくわかる異文化コミュニケーション』（ミネルヴァ書房、2010年）他。（授業で随時紹介します）</p> | | | |
| 授業スケジュール | <p>第1回 異文化コミュニケーションを学ぶことの意義：文化・異文化とは何か</p> <p>第2回 グローバル社会と異文化コミュニケーション（1）：グローバル化の意図</p> <p>第3回 グローバル社会と異文化コミュニケーション（2）：異文化交流の歴史と異文化への眼差し</p> <p>第4回 空間、時間、異文化コミュニケーション：さまざまな意味をもつ空間と時間</p> <p>第5回 「地球都市の出現とコミュニケーション」：都市化する世界</p> <p>第6回 女性と異文化適応：異文化適応におけるジェンダー</p> <p>第7回 異文化コミュニケーションと誤解の接点：誤解という身近なできごと</p> <p>第8回 異文化コミュニケーションにおける言語選択：「英語の普及」をどう捉えるか</p> <p>第9回 異文化コミュニケーションとしての通訳者（1）：通訳の種類、通訳の歴史</p> <p>第10回 異文化コミュニケーションとしての通訳者（2）：通訳は言葉の置き換え作業？</p> <p>第11回 異文化交流会準備（1）：異文化接触とは―「よそ者」と異文化適応</p> <p>第12回 異文化交流会準備（2）：グローバル化とアイデンティティ―自分のことば、他者のことば</p> <p>第13回 異文化交流会準備（3）：異文化コミュニケーションとは</p> <p>第14回 異文化交流会：異文化コミュニケーションの実践</p> <p>第15回 異文化交流会まとめ：新しい「異文化コミュニケーション」に向けて</p> | | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示する。 | | | |
| 成績評価の方法 | 授業への参加態度（40%）、小レポート（異文化交流会前の準備レポートを含む）（20%）、最終レポート（40%） | | | |
| 実務経験について | なし | | | |

| 授業科目 | アジア事情 | | 担当者 | 福田 忠弘 |
|--------------------|--|------|---------|-------|
| | 〔履修年次〕 | 1,2年 | 授業外対応 | 適宜対応 |
| | 〔学期〕 | 後期 | 〔単位〕 | 2単位 |
| | | | 〔必修/選択〕 | 選択 |
| | | | 〔授業形態〕 | 講義方式 |
| テーマ及び概要 | <p>【テーマ】東アジア、東南アジアの歴史と現在の状況について把握する。</p> <p>【概要】アジアは、地理、歴史、言語、文化、宗教、民族など、すべての面において多様である。本講義では、「アジア」という概念のもつ多様性について基本的な理解を得ながらも、「共通性」について焦点をあてる。近代以降においては植民地化、現代においては脱植民地化、国民国家建設、リージョナリズム（地域主義）の形成という共通性がある。また、最近東アジアにおける地域協力が注目を浴びている。これらの共通する事象を抽出し、分析する。</p> <p>【到達目標】「アジア」という概念のもつ多様性について基本的な理解を深める。</p> | | | |
| (1)テキスト (2)参考文献 | <p>(1) 使用しない。</p> <p>(2) 適宜、紹介する。</p> | | | |
| 授業スケジュール | <p>第1回 ガイダンス：講義の目的と方法</p> <p>第2回 アジアの巨大遺跡：アンコールワット</p> <p>第3回 アジアの巨大遺跡：バガン</p> <p>第4回 「アジア」という概念：アジアはどこまでがアジアか</p> <p>第5回 東南アジアの基本情報：地理や気候</p> <p>第6回 海域アジア：海を通じた結びつき（1）</p> <p>第7回 海域アジア：海を通じた結びつき（2）</p> <p>第8回 海域アジア：海を通じた結びつき（3）</p> <p>第9回 歴史的形成1：植民地の様子</p> <p>第10回 歴史的形成2：植民地からの独立（1）</p> <p>第11回 歴史的形成3：植民地からの独立（2）</p> <p>第12回 東南アジア1：インドシナ3国</p> <p>第13回 東南アジア2：タイ、ミャンマー、マレーシア</p> <p>第14回 アジアにおける協力体制：ASEANを中心とする協力</p> <p>第15回 まとめ</p> | | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示する | | | |
| 成績評価の方法 | レポート（100%）によって評価する。 | | | |
| 実務経験について | NGOでの勤務経験あり | | | |

| 授業科目 | 国際経済特講 I | | 担当者 | 村田 秀博 |
|--------------|---|------|---------|--------------|
| | [履修年次] | 1,2年 | 授業外対応 | 授業終了後 Eメールにて |
| | [学期] | 後期 | [単位] | 2単位 |
| | | | [必修/選択] | 選択 |
| | | | [授業形態] | 講義方式 |
| テーマ及び概要 | <p>【テーマ】【テーマ】 地域経済の国際化と鹿児島県内企業の海外進出、それに伴う貿易取引 キーワード：県内中小企業も多くの海外業務を行っている。資料 DVD サンプル多用のわかりやすい授業 【概要】【概要】 日本の中小企業は、近年の国内経済環境の変化の中で企業活動を海外へ拡大させ、更なる商機をつかもうという動きが活発化している。県内でも同様であり、海外を目指す中小企業が「挑戦」「失敗」「成功」を繰り返している。その具体的な現状を認識した上で、海外展開方法論を考える。また基礎となる貿易知識も習得する。 【到達目標】【到達目標】 地域の海外展開の具体的な動きを理解する中で、優位性・課題問題点をふまえた個々の解決方法を見出す。 県内企業・行政機関などで、海外業務を担当できるスキルを習得する。</p> | | | |
| (1)テキスト | (1) レジュメ・プリント資料 | | | |
| (2)参考文献 | (2) 海外映像・サンプル・雑誌新聞投稿資料ほか | | | |
| 授業スケジュール | 第 1 回 ガイダンス（日本経済・地域経済のグローバル化・海外知的財産権・外国人人材） 第 2 回 鹿児島県内中小企業の国際化の現状 第 3 回 進出国の情勢比較（中国） 第 4 回 進出国の情勢比較（中国） 第 5 回 海外知的財産権の保護（悪意の商標登録など） 第 6 回 県内大学の海外展開・県内医療機関メディカルツアーの誘致 第 7 回 貿易実務（各自由貿易協定、RCEP・TPP・FTA・EPA ほか） 第 8 回 進出国の情勢比較（台湾・香港・タイ） 第 9 回 進出国の情勢比較（ミャンマー・シンガポール） 第 10 回 進出国の情勢比較（マレーシア・インドネシア・ロシアほか） 第 11 回 進出国の情勢比較（ベトナム・外国人人材受け入れ） 第 12 回 貿易実務（外国為替・為替相場・先物予約） 第 13 回 貿易実務（外貨預金・外貨貸付） 第 14 回 貿易実務（輸出・輸入） 第 15 回 まとめ | | | |
| 授業外学習(予習・復習) | | | | |
| 成績評価の方法 | 筆記試験 80% + レポート 20% | | | |
| 実務経験について | 金融機関にて国際業務に 2-3 年間携わり、世界各地にてフィールドワーク実践。貿易・外国人人材・海外知的財産権専門家。海外ビジネスツアー 100 回以上企画開催。タイ王国赴任経験あり。お勧めの海外旅行精通。 | | | |

| 授業科目 | 地域経済論 | | 担当者 | 前田 千春 |
|--------------|--|------|---------|--------------------------|
| | [履修年次] | 1,2年 | 授業外対応 | 適宜対応する。メール等で事前に連絡してください。 |
| | [学期] | 前期 | [単位] | 2単位 |
| | | | [必修/選択] | 選択 |
| | | | [授業形態] | 講義方式 |
| テーマ及び概要 | <p>【テーマ】 日本の地域経済の構造を学び、地域経済の発展について考察する。 【概要】 人口減少や高齢化により地域経済の活性化は日本において喫緊の課題となっている。本講義では、地域経済の構造やその変化を捉える視点を学び、具体的な事例の分析を通じて地域経済の発展について考察する。 【到達目標】 ※鹿児島市役所からゲストスピーカーを呼ぶこともあります。</p> | | | |
| (1)テキスト | (1) プリントを配布する。 | | | |
| (2)参考文献 | (2) | | | |
| 授業スケジュール | 第 1 回 ガイダンス：「地域」とは何か 第 2 回 地域経済の基礎理論 第 3 回 地域経済循環と地域構造 第 4 回 地域経済の実態 第 5 回 地域経済に関する統計 第 6 回 グループワーク①：地域経済統計の活用 第 7 回 大都市と地方都市 第 8 回 工業都市 第 9 回 農業地域 第 10 回 山村地域 第 11 回 地場産業地域 第 12 回 第三次産業地域 第 13 回 地域経済の成長理論 第 14 回 グループワーク②：地域経済の事例分析 第 15 回 まとめ：地域経済の発展に向けて | | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 毎回復習をして講義を受けること。グループワーク前には課題を提示するので、各自で取り組むこと。 | | | |
| 成績評価の方法 | 講義内レポート・発表 (50%)、期末レポート (50%) | | | |
| 実務経験について | なし | | | |

| | | | |
|--------------------|---|------------|--------------------------|
| 授業科目 | 地域産業政策 | 担当者 | 前田 千春 |
| | [履修年次] 1,2年 [学期] 後期 [単位] 2単位 | 授業外対応 | 適宜対応する。メール等で事前に連絡してください。 |
| | | [必修/選択] 選択 | [授業形態] 講義方式 |
| テーマ及び概要 | <p>【テーマ】地域産業政策の理論と事例を学び、これからの地域づくりの方策を探る。</p> <p>【概要】地域産業政策とは国や地方自治体が地域の活性化のために産業振興等を行う政策のことである。本講義では、日本の地域を取り巻く現状と地域産業政策の必要性について学ぶとともに、各地で行われている地域産業政策の効果を考察し、これからの地域産業政策の在り方を探る。</p> <p>【到達目標】地域産業政策の理論および具体的な取り組みを理解できる。地域が直面する課題を把握し、今後の地域産業政策の在り方や方向性を提示できるようになる。</p> | | |
| (1)テキスト (2)参考文献 | <p>(1) プリントを配布する。</p> <p>(2)</p> | | |
| 授業スケジュール | <p>第 1 回 ガイダンス：日本の地域を取り巻く現状</p> <p>第 2 回 人口移動と地域間格差</p> <p>第 3 回 地域産業政策と地方創生</p> <p>第 4 回 地域産業政策の事例①：製造業・工業</p> <p>第 5 回 地域産業政策の事例②：農業</p> <p>第 6 回 地域産業政策の事例③：林業</p> <p>第 7 回 地域産業政策の事例④：観光業</p> <p>第 8 回 地域産業政策の事例⑤：離島</p> <p>第 9 回 鹿児島県における地域産業政策</p> <p>第 10 回 グループワーク①：鹿児島県を事例に地域産業政策を考える</p> <p>第 11 回 地方創生にかかる制度・仕組み</p> <p>第 12 回 海外の地域産業政策①</p> <p>第 13 回 海外の地域産業政策②</p> <p>第 14 回 グループワーク②：地域産業政策の作成と発表</p> <p>第 15 回 まとめ：これからの地域産業政策の在り方</p> | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 毎回復習をして講義を受けること。グループワーク前には課題を提示するので、各自で取り組むこと。 | | |
| 成績評価の方法 | 講義内レポート・発表 (50%)、期末レポート (50%) | | |
| 実務経験について | なし | | |

| | | | |
|--------------------|---|------------|---|
| 授業科目 | 地方財政論 | 担当者 | 船津 潤 |
| | [履修年次] 1,2年 | 授業外対応 | 講義前後, それ以外にも随時(日時を調整することがあるかもしれませんが, 遠慮なく声をかけてください) |
| | [学期] 後期 [単位] 2単位 | [必修/選択] 選択 | [授業形態] 講義方式 |
| テーマ及び概要 | <p>【テーマ】地方財政に関する基本的な概念や理論, 日本の地方財政制度の内容, 実態, 特徴, 課題に関する理解を深めること</p> <p>【概要】地方自治とは何か, 日本の国と地方自治体との関係(政府間関係)の特徴を踏まえて, 日本の地方財政について, 基本的な概念や理論, 制度について講義します。ここでは, 地方団体の自治体としての側面と国の地方行政機関としての側面の葛藤やグローバル化などの地方財政に改革が求められている背景, そして生活の基盤を支える地方財政の重要性を強く意識しながら講義を進めます。</p> <p>【到達目標】①日本の地方財政制度について理解し, 説明できるようになること ②地方財政について主体的に考察し, 判断できるようになること ③自分が暮らす地域の課題を見出し, その解決策を提案できるようになるための基礎力を身につけること</p> | | |
| (1)テキスト (2)参考文献 | <p>(1) なし</p> <p>(2) 総務省編『地方財政白書 各年版』日経印刷</p> | | |
| 授業スケジュール | <p>第 1 回 ガイダンス: 講義の目標, 評価基準等の説明</p> <p>第 2 回 地方自治(1): 定義, 地方政府の特徴, 地方分権が求められる背景等</p> <p>第 3 回 地方自治(2): グローバル化の影響等</p> <p>第 4 回 地方予算(1): 予算の役割, 地方予算の特徴, 中央と地方の相互依存関係等</p> <p>第 5 回 地方予算(2): 日本の制度の特徴, 課題, 日本の政府間関係の特徴の影響等</p> <p>第 6 回 地方の決算: 定義, 日本の制度と問題点, 外部監査, 市民オンブズマン等</p> <p>第 7 回 地方の経費(1): 定義, 主な分類とその見方, 都道府県と市町村の違い等</p> <p>第 8 回 地方の経費(2): 義務的経費と投資的経費, その問題点等</p> <p>第 9 回 国庫支出金(1): 補助金の分類, 国庫支出金とは, 求められる役割, 補助金制度において配慮すべき原則等</p> <p>第 10 回 国庫支出金(2): 実態, 問題点, 三位一体の改革等</p> <p>第 11 回 地方交付税(1): 財政調整制度とは, 地方交付税の制度の内容等</p> <p>第 12 回 地方交付税(2): 機能, 問題点等</p> <p>第 13 回 地方債: 定義, 適債事業, 2006 年度からの変化等</p> <p>第 14 回 住民自治: シアトル・メトロの事例(地方政府の創設)について</p> <p>第 15 回 まとめ: 講義を振り返りつつポイントの説明, 試験についての説明等</p> | | |
| 授業外学習(予習・復習) | <p>講義の前後に総務省のサイト等で関連事項について調べ, 検討すること, 普段から地方財政関連のニュースに注目すること(できれば外国のメディア(民間企業との関係では特に興味深い記事を出すことがあります)を含む複数)を勧めます(公務員試験を含む就職活動や四大への編入(地域との連携は殆どの大学にとって重要な課題です)にも有意義です)。そして, 講義内容に直接関係しなくても, 聞きたいことが出てきたら, 遠慮なく質問してください。</p> | | |
| 成績評価の方法 | <p>筆記試験(80%), 小テスト(20%)を基本とし, アクティブラーニングでの発言内容で加点します。小テストやアクティブラーニング等の詳細については1回目の講義(ガイダンス)で説明します。</p> | | |
| 実務経験について | <p>なし</p> | | |

| 授業科目 | 非営利組織論 | | 担当者 | 丸田 真悟 |
|--------------------|--|------|---------|------------|
| | [履修年次] | 1,2年 | 授業外対応 | 適宜対応 (要予約) |
| | [学期] | 後期 | [単位] | 2単位 |
| | | | [必修/選択] | 選択 |
| | | | [授業形態] | 講義方式 |
| テーマ及び概要 | <p>【テーマ】【テーマ】現代社会における非営利組織 (NPO) の役割と課題そして可能性</p> <p>【概要】概要 非営利組織 (NPO) は、医療・福祉から街作り、学術・文化・芸術、国際交流まで社会のあらゆる分野で市民の多種多様なニーズに応えるサービスを創り出しています。行政や企業との協働も一段と進み、その存在は今や市民生活の中で重要な位置を占めるようになってきました。一方でNPOを巡る環境も大きく変わりつつあります。そこで本講義ではNPOの概念と組織運営について考えると共に、現代日本社会におけるNPOの役割と課題、これからの可能性について考えます。</p> <p>【到達目標】【到達目標】NPOに関する基本的な知識を習得し、現代社会におけるNPOの役割と課題、可能性を考える基盤を養います。</p> | | | |
| (1)テキスト (2)参考文献 | <p>(1) プリントを使用</p> <p>(2) 雨森孝悦『テキストブック NPO 第3版』東洋経済新報社 (2020)、澤村明・田中敬文・黒田かをり・西出優子『はじめてのNPO論』有斐閣 (2017)、田尾雅夫・吉田忠彦『非営利組織論』有斐閣 (2009) ほか随時紹介します。</p> | | | |
| 授業スケジュール | <p>第1回 非営利組織 (NPO) とは何か 「非営利」の意味、NPOの定義について考えます。</p> <p>第2回 NPOとボランティア NPOを支える理念について考えます。</p> <p>第3回 NPOの歴史と存在理由 資本主義経済の中で存在感を増している理由を考えます。</p> <p>第4回 NPOの世界1 様々なNPOの活動分野とその組織としての特徴について考えます。</p> <p>第5回 NPOの世界2 様々なNPOの活動分野とその組織としての特徴について考えます。</p> <p>第6回 NPOの機能 NPOが社会において果たしている機能について考えます。</p> <p>第7回 NPOにかかわる制度と政策 NPOの運営や税に関する制度について考えます。</p> <p>第8回 行政、企業とNPO 行政や企業との「協働」・「パートナーシップ」について考えます。</p> <p>第9回 NPOのマネジメント1 NPOの経営管理について考えます。</p> <p>第10回 NPOのマネジメント2 NPOの経営戦略について考えます。</p> <p>第11回 NPOのマネジメント3 NPOの資金調達と評価手法について考えます。</p> <p>第12回 (WS) NPOをつくる1 具体的にNPOを考え、立ち上げる実習です。</p> <p>第13回 (WS) NPOをつくる2 具体的にNPOを考え、立ち上げる実習です。</p> <p>第14回 NPOの課題と可能性 NPOを取り巻く環境とそこから見えてくる課題と可能性について考えます。</p> <p>第15回 まとめ</p> | | | |
| 授業外学習 (予習・復習) | 適宜指示 | | | |
| 成績評価の方法 | レポート (70%) + 授業ごとに実施する小論文 (30%) | | | |
| 実務経験について | 認定NPO法人理事長 | | | |

| 授業科目 | 労働法 | | 担当者 | 藤野 博行 |
|--------------------|---|------|---------|----------------|
| | [履修年次] | 1,2年 | 授業外対応 | 基本的にいつでも対応します。 |
| | [学期] | 後期 | [単位] | 2単位 |
| | | | [必修/選択] | 選択 |
| | | | [授業形態] | 講義方式 |
| テーマ及び概要 | <p>【テーマ】労働者として知っておくべき知識と、その知識を活用して考える力を育みます。</p> <p>【概要】あまり意識していないかもしれませんが、みなさんは、アルバイトや卒業後に企業等で働く際に雇用契約を結びます。そして、働く皆さんを守ってくれる法律、それが労働法です。本科目は、労働法のうち、皆さんがアルバイトや社会に出たときに知っておいた方がよい基本的な知識を講義するほか、簡単な課題についてグループで考えます。</p> <p>【到達目標】①労働法に関する基本的なキーワードや考え方について、その内容を説明できる、②グループで意見を出し合いながら課題について論理的に考え、他者に自分の意見をわかりやすく表現することができる、③異質な他者と議論・協働することができる</p> | | | |
| (1)テキスト (2)参考文献 | <p>(1) なし (資料を配付します)</p> <p>(2) 必要に応じて提示します。</p> | | | |
| 授業スケジュール | <p>第1回 授業を進めるにあたって</p> <p>第2回 労働法ってどんな法律? (労働法の概要)</p> <p>第3回 労働法は就職活動にも適用されます! (採用と労働法①)</p> <p>第4回 「採用」について (採用と労働法②)</p> <p>第5回 会社と従業員の間に発生する権利義務について</p> <p>第6回 賃金 (給料) の額や支払い方法にも決まりがある</p> <p>第7回 知識確認テスト (前半)</p> <p>第8回 労働時間・休憩や休日についても決まりがある</p> <p>第9回 残業したり、休日に出勤したらどうなるの?</p> <p>第10回 カラダが「ととのう」有給休暇 (年休) の話</p> <p>第11回 仕事中に体を壊したら? (労災保険制度)</p> <p>第12回 仕事を辞める場合 (労働契約の終了)</p> <p>第13回 育児・介護と仕事の両立 (産前・産後休業、育児・介護休業法)</p> <p>第14回 知識確認テスト (後半)</p> <p>第15回 期末レポートに向けて</p> | | | |
| 授業外学習 (予習・復習) | 講義時に指示します。 | | | |
| 成績評価の方法 | ①知識確認テスト (20点×2)、②期末レポート (50点) ③グループワーク等の際の積極性 (10点)。 | | | |
| 実務経験について | | | | |

| 授業科目 | 地域研究特講 | | 担当者 | 福田 忠弘 | | | | | |
|--------------------|---|------|-------|-------|-----|---------|----|--------|------|
| | 〔履修年次〕 | 1,2年 | 授業外対応 | 適宜対応 | | | | | |
| | | 〔学期〕 | 後期 | 〔単位〕 | 2単位 | 〔必修/選択〕 | 選択 | 〔授業形態〕 | 講義方式 |
| テーマ及び概要 | <p>【テーマ】世界の格差の状況について認識し、貧困の問題について国際社会はどのような対応をとってきたのかを講義する。</p> <p>【概要】本講義では、さまざまな国際協力・開発援助について取り上げる。最初に開発援助についての歴史について言及した後、国際機関、国家、地方自治体、市民が主体となった国際協力について概観する。</p> <p>【到達目標】さまざまな行為体が、さまざまなレベルで、多様な援助が行われていることを理解することが到達目標である。</p> | | | | | | | | |
| (1)テキスト (2)参考文献 | <p>(1) 使用しない。</p> <p>(2) 新潟国際ボランティアセンター編『地方発の国際NGO：グローバルな市民社会に向けて』（明石書店、2008年）</p> | | | | | | | | |
| 授業スケジュール | <p>第1回 ガイダンス：講義の目的と方法</p> <p>第2回 世界の現状1：キーワードから見る国際社会（1）</p> <p>第3回 世界の現状2：キーワードから見る国際社会（2）</p> <p>第4回 国際社会の変容（1）：ブレトンウッズ体制について</p> <p>第5回 国際社会の変容（2）：ブレトンウッズ体制の変容</p> <p>第6回 国際社会の変容（3）：グローバリゼーション、コロナ、経済安全保障</p> <p>第7回 途上国の開発：開発をどのように捉えるか？</p> <p>第8回 社会開発への視点（1）：NGOの活躍（1）</p> <p>第9回 社会開発への視点（2）：NGOの活躍（2）</p> <p>第10回 社会開発への視点（3）：国連と人間開発（1）</p> <p>第11回 社会開発への視点（4）：国連と人間開発（2）</p> <p>第12回 社会開発への視点（5）：国連とSDGs(1)</p> <p>第13回 社会開発への視点（6）：国連とSDGs(2)</p> <p>第14回 社会開発への視点（7）：地方自治体とSDGs</p> <p>第15回 まとめ</p> | | | | | | | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 適宜指示する | | | | | | | | |
| 成績評価の方法 | 試験（100％）によって評価する。 | | | | | | | | |
| 実務経験について | NGOでの勤務経験あり | | | | | | | | |

| 授業科目 | 地方自治法 | | 担当者 | 山本 敬生 | | | | | |
|--------------------|--|------|-------|-----------|-----|---------|----|--------|------|
| | 〔履修年次〕 | 1,2年 | 授業外対応 | 適宜対応（要予約） | | | | | |
| | | 〔学期〕 | 後期 | 〔単位〕 | 2単位 | 〔必修/選択〕 | 選択 | 〔授業形態〕 | 講義方式 |
| テーマ及び概要 | <p>【テーマ】住民自治、団体自治といった地方自治の基礎理論を理解した上で、地方公共団体の種類及び事務、住民の権利義務、いて検証することをテーマにする。</p> <p>【概要】地方自治法は、国と地方自治公共団体の役割分担、機関委任事務の廃止に伴う法定受託事務の創設、普通地方公共団体に対する国または都道府県の関与、国と普通地方公共団体との間の係争処理手続等を規定している。本講義では、地方自治法をわかりやすく解説することで、地方自治法が地方分権改革を推進する上でいかなる役割を果たすかを学習する。</p> <p>【到達目標】地方自治法の基本構造を正確に理解し、国と地方公共団体のあるべき関係を法的視点から考察できる力を習得することを目標にする。</p> | | | | | | | | |
| (1)テキスト (2)参考文献 | <p>(1) プリント</p> <p>(2) 佐伯仁志他編、『ポケット六法（令和6年度版）』、有斐閣</p> | | | | | | | | |
| 授業スケジュール | <p>第1回 地方自治の意義</p> <p>第2回 地方公共団体の種類</p> <p>第3回 地方公共団体の区域・事務</p> <p>第4回 住民の権利義務(1)</p> <p>第5回 住民の権利義務(2)</p> <p>第6回 条例と規則(1)</p> <p>第7回 条例と規則(2)</p> <p>第8回 議会(1)</p> <p>第9回 議会(2)</p> <p>第10回 執行機関(1)</p> <p>第11回 執行機関(2)</p> <p>第12回 国等の地方公共団体への関与</p> <p>第13回 長と議会との関係(1)</p> <p>第14回 長と議会との関係(2)</p> <p>第15回 予算</p> | | | | | | | | |
| 授業外学習(予習・復習) | 復習を重視する。 | | | | | | | | |
| 成績評価の方法 | 筆記試験（90％）＋授業での発言内容（10％）を基準にして評価する。 | | | | | | | | |
| 実務経験について | なし | | | | | | | | |